

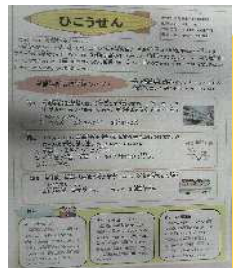
3

クイズ形式のお便りでの交流！

★ 高島特別支援学校と高松小学校の交流 ★

高松小学校は、お便りを互いに交換する間接交流を行いました。高島特別支援学校から「支援学校がどのようなところか」クイズ形式のお便りとプロフィールを送付。高松小学校の教室に掲示しました。

高松小学校は、令和2年度に学校で行った行事や、クラスの様子をまとめたお便りを送りました。今回は間接交流となり残念でしたが、子どもたちは直接会える日を心待ちにしています。



4

ユニセフの募金活動での交流！

★ 大泉特別支援学校—大泉桜学園（中）の交流 ★

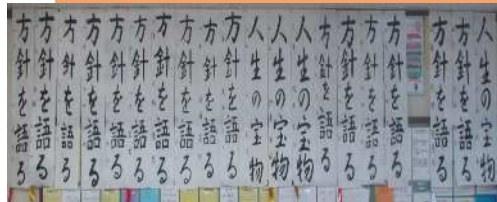
1 募金活動

大泉桜学園の児童生徒会が毎年主催するユニセフの募金活動と一緒に取り組みました。校舎の前に並び、登校してくる児童生徒や先生から多くの寄付を受けることができました。令和2年度はユニセフに40,800円の寄付を行いました。

こうした副籍交流による募金活動は毎年行っています。

2 作品展示

特別支援学校の児童が夏休みに育てたあさがおの花を数えた観察日記や、書初めの作品を大泉桜学園の教室に掲示し、交流を行いました。



掲示された作品

3 保護者の方より

新しい生徒会の方には初めてお目にかかりました、とてもスムーズに交流できました。感謝いたします。

募金活動で、我が子に役割をもたせてもらうこと、左右からの呼びかけの音が聞こえるように真ん中に入れてもらうことなど、いろいろなご配慮をいただき、嬉しく思っています。

副籍交流 実践事例集

交流のテーマ

1 ZOOMを使ったオンライン交流！

2 公園や憩いの森での交流！

3 クイズ形式のお便りでの交流！

4 ユニセフの募金活動での交流！

はじめに

児童生徒に適切な学びを提供するためには、区立小中学校と都立特別支援学校の連携が欠かせません。

区では、都立特別支援学校に通う児童生徒が、お住いの地域の小学校や中学校にも在籍する副籍交流を実施しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、子どもたち同士の交流に影響が生じています。そこで“**コロナ禍における交流**”をテーマに、各学校における工夫を凝らした取組事例をまとめました。これからの交流促進のヒントとなれば幸いです。

発行：練馬区教育委員会事務局教育振興部学務課

電話 03-5984-5664

メール GAKUMUKA@city.nerima.tokyo.jp

令和3年5月発行

★ 石神井特別支援学校と大泉小学校の交流 ★

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、直接学校に来校することが難しい状況を踏まえ、大泉小学校では、Zoomを使って教室とご自宅をつなぎ、約30分間交流しました。

テーマは『大泉小学校の自慢』です！

1 自己紹介・作品発表

はじめに、特別支援学校の児童の自己紹介。笑顔を見せながら、パズルやクイズが好きなことを紹介しました。

続いて、特別支援学校で作った作品の紹介。カラーセロハンをペットボトルに貼り、中からライトで照らせるペットボトルライト『森の友達』。墨で線を描き、その上に金網やブラシで金色の絵の具を散らした絵。画面に映るたびに、大泉小の児童から、歓声があがりました。



ボードを使った自己紹介



画面を通じて班ごとに呼びかけ

3 今後の交流にむけて

互いに感想を述べて、その日の交流を終えました。

特別支援学校の児童は「広い校庭が残った。楽しかった！」大泉小の児童たちからは「Zoomでの交流でちゃんと声が聞こえるか不安だったけど、しっかり聞いて嬉しかった！」「ぜひ大泉小に来てください！」

特別支援学校の保護者からは「Zoomでの交流はすごく良く、年に1回はこのような形で交流いただきたい。」との感想を頂戴しました。



カメラにボードを近づけクイズを出題

2 大泉小学校の自慢

大泉小学校の児童たちは6班に分かれ、学校の自慢を発表。

先生や友達がやさしいこと、校庭が2つあること、図書室に「わかったルーム」「おもしろルーム」があること等を画面を通じて呼びかけました。時折、マジックや大泉小にちなんだクイズ、「ぐりとぐら」の朗読をはさむなど、特別支援学校の児童を楽しませる仕掛けがふんだんにありました。

★ 大泉特別支援学校と上石神井小学校の交流 ★

1 交流前に

交流を行う前に、大泉特別支援学校のコーディネーターの先生が授業を実施。「大泉特別支援学校ってどんなところ？」「どんなお友達がいるの？」授業を受けて、児童たちは当日の交流が楽しみになりました。



2 生活科「秋をみつけよう」

特別支援学校の児童と一緒に生活科の「秋のお祭り」の材料を集めに、近くの「上石神井東公園」や「観音山憩いの森」に行きました。公園内を散策し、どんぐりや落ち葉を拾いました。

その後、上石神井小学校の児童で、拾った材料を使ってコマや迷路を作りました。



3 音楽

上石神井小学校の児童は普段から手話を練習しています。

手話で、となりのトトロ「さんぽ」を歌いました。また、ピアノや鈴、タンバリン、カスタネット等を使い、「森のくまさん」を合奏しました。

4 ドッチビー大会

1年生全体でドッチビー大会を開催しました。

ドッチビーは、ドッジボールと同様のルールで、ボールの代わりにフリスビーを投げる競技です。フリスビーは柔らかいため、身体にあたって痛くありません。

特別支援学校の児童は見学しながら、熱心に声援を送り楽しんでいました。



副籍制度とは

都立特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の区市町村立小・中学校に副次的な籍をもち、直接的な交流や間接的な交流を通じて、居住する地域とのつながりの維持・継続を図る制度です。

※ 「副次的な籍」を『副籍』と言います。
※ 都立特別支援学校の児童・生徒が「副籍」を置く小・中学校のことを『地域指定校』と言います。

■ 交流には、学校・学級便りや手紙等の交換を主とする「間接的な交流」と、都立特別支援学校の児童・生徒が地域指定校の授業や行事に参加する「直接的な交流」とがあります。



◆ 都立特別支援学校で学ぶ児童・生徒は、スクールバス等を利用して自宅から離れた学校に通うため、居住地域における同年代の子供同士の交流の機会が少なくなりがちです。